

グラーツ

観光の基本・見どころ・アイデアなど

A. シュワルツェネッガーの生まれ故郷、シュタイヤマルク州の州都グラーツは、ウィーンに次ぐオーストリア第2の都市で、「世界遺産」にも指定されている美しい町です。この州は、中世の昔は独立の侯国でハプスブルク一族が君臨していました。グラーツはその居城都市として長い歴史を持ち、美しい旧市街と、近郊にも趣深い古城や民俗村野外博物館などがあります。



グラーツ半日市内観光

- ◇ フランスカーナ広場と教会
- ◇ 中央広場のヨハン大公の像と市庁舎
- ◇ シュロスベルク(城山)と時計塔<ケーブルカーで3分>
- ◇ 二重らせん階段(王宮)
- ◇ 大聖堂(教会)<内部見学>
- ◇ マウソレウム(霊廟)
- ◇ 州庁舎中庭



	交通機関	スケジュール
1	徒歩	午前：市内観光 昼食：(ラントハウスケラーなど)
	バス	午後：自由行動、 またはエッケンベルク宮殿と武器庫見学 [グラーツ泊]

グラーツの見どころ Highlight

中央広場と市庁舎



1160年に誕生した中央広場は、街の中心部です。時とともに行人らへの往来が盛んになり、商取引を行う市場へと発達しました。広場の南側にそびえ立つのが市庁舎。広場の中心には1878年に立てられたヨハン大公の記念像があります。

シュロスベルク(城山)

旧市街の中心にあるハウプトブラッツ広場から、まず旧市街の北側にあるシュロスベルクに登っていきましょう。石段を登ってもよし、シュロスベルクバーンというケーブルカーに乗ることもできます。昔は壮大堅固な城だったのですが、ナポレオン軍に破壊されたため、今では鐘楼と時計塔しか残っていません。しかし城山の上からはグラーツの街、ムーア川、そしてアルプスの前山が一望できます。眺めの良いカフェ・レストランもあります。

グラーツの旧市街

世界遺産に指定されているグラーツの旧市街、ハウプトブラッツ広場とそのあたり一帯の通りには、

華やかな漆喰細工で飾られた家や、古風なアーケードや出窓を持つ家などが多く、昔ながらの町並みが好きな人にはたまらない魅力です。そういう家も、内部は洒落たブティックやカフェ・レストランになっていて、散策の楽しみは尽きません。若い人たちがよく街角に立って、バイオリン、フルート、クラリネット、ギターなどを演奏しているのも、この街の伝統のひとつです。

武器庫(ツォイクハウス)



世界最大の中世の鎧や鉄砲など3万点以上を展示した武器庫。開館は4月1日から10月31日まで。武器庫の内部見学する場合は、約30分かかりますので半日観光に入れ込む場合は上記の一部をカットする必要があります。また、もし、もう半日の時間があれば、下記のエッケンベルク宮殿と組み合わせて午後の半日観光とするのも良いでしょう。

www.zeughaus.at

州庁舎と中庭

豪華な回廊が美しい中庭では、ルネッサンス芸術の傑作を目の当たりにできます。夏にはこの中庭で野外映画祭が、また、アドヴェント(キリスト待降節)の時期にはイベントが行われます。

大聖堂

皇帝フリードリヒ3世が王宮礼拝堂として、王宮の向かいに建造させました。内部には、数多くの芸術品があります。大聖堂の南側の左手、屋根の下には1480年にシュタイヤマルクを襲った三つの苦難を描いた「国三重苦画」(1485年)が見られます。

王宮

大聖堂の向かいにある王宮は、のちの皇帝フリードリヒ3世が1438~1452年にかけて建造させ、皇帝になってから何十年の間、治世の本陣を構えていました。その後、皇帝マキシミリアン1世が拡張しています。1499年に作られたゴシック様式の二重らせん階段は、きわめてユニークで一見に値します。

ムーア川の「ザ・アイランド」

この施設は、21世紀の人々のコミュニケーション、レクリエーション、エンターテインメントの場です。建築の傑作であり、きわだつ芸術オブジェとしてもグラーツを訪れる人々の目を引きまします。



グラーツの見どころ Highlight

オペラハウス



ウィーンの有名な劇場建築家であるフェルディナンド・フェルナーとヘルマン・ヘルマーによって1898～1899年に建てられました。建築様式はフィッシャー・フォン・エアラッハ（ちなみに彼は

グラーツ出身）にヒントを得たものです。バロックとロココ調の装飾を施された客席ホールは、世界で最も美しく調和の取れたホールの一つといえます。オペラハウスの前に立つ巨大オブジェは、「光の剣」と呼ばれ、1992年芸術祭「シュタイマルクの秋」に際して建立されました。

クンストハウス・グラーツ



欧州文化首都「グラーツ2003」を記念して建てられた博物館で、今だかつて見た事も無いユニークな形のモダンな建築物。国際的なモダンアートやコンテンポラリー・アートなどの作品を展示する複合専門美術館です。空気の泡のような形で青みを帯びて光るアクリルガラスの外部。川を隔てた歴史的なシンボルの時計塔と対照的なグラーツの新しいトレードマークです。

www.kunsthausegraz.at

エッゲンベルク城



市の郊外にある貴族の館。広大な庭園には孔雀が放し飼いされています。3階の宮殿の各部屋の見学が可能（ただしガイドツアーのみ可能）。2階は狩猟博物館で1階は

古代博物館。

オープンは4月上旬から9月下旬まで7月の中旬から9月の中旬までのあいだに約10回月曜日夜8時にキャンドルライトのもとでロマンチックな室内楽コンサートが「惑星のホール」で開催されます。<路面電車で約15分>

アイデア Travel Ideas

青空市場

その土地の新鮮な食べ物に出会いたいときは、市場をのぞいてみましょう。

☆カイザー・ヨーゼフ広場

Kaiser-Josef-Platz

月曜～土曜 05:00～13:00

☆レントプラッツ Lendplatz

月曜～土曜 05:00～12:30



食事

シュタイヤマルクは、カボチャの産地で、カボチャの種から作る濃い緑色のカボチャ油は、特産品でお料理によく使われます。最近の研究では、カボチャ油は、癌の予防や心筋梗塞予防に良い健康食品として注目を浴びています。また、その他、この地方は、オーストリア随一のりんごの産地でもあり、さまざまなりんご酒は、料理にアクセントを添えています。全国的には、生産量は少ないとはいえ、シュタイヤマルクのワインとビールも独特の味わいを持っています。

郷土料理レストラン「ラントハウスケーラー」

州庁舎横にある郷土料理の店。グラーツの代表的なレストランとして団体にもお勧め。

Schmiedgasse 9, Tel: 830276 月曜～日曜 11:30～24:00

ビアレストラン「ドーム・ブロイ」

街の中心にあって、グラーツの数少ない自家製ビールを味わえるレストラン。黒ビール、ヴァイツェンビールから季節のビールまでいろいろ味わえます。予約によりビール醸造所も見学できるのでグループにもお勧め。

Bärnergasse 5, Tel: 821950 月曜～土曜 11:00～24:00

ハプスブルク家のパン屋さん「ホーフカフェ・エッゲラー・タックス」

グラーツに来たら、この宮廷パン屋を訪れないことには、グラーツの食のことは語れません。ハプスブルク家の紋章が目印。カフェで一休みしてもよいし、お菓子やパンをテイクアウトしてホテルで食べるのもお勧めです。

Hofgasse 8, Tel: 83023051

月曜～金曜 06:30～20:00

土曜 06:30～15:00



エクスカージョン Excursions

南シュタイヤマルクの4つのワイン街道

- ①ブルゲンランドとの州境に沿ってフェーリング～ハルペンライン間を南北に走るクレヒャー・ワイン街道
- ②サウザル地方のサント・アンドレからキツェックへ続くサウザーラー・ワイン街道
- ③ワイン地方の西端リギスト～アイビスヴァルト間を南北に走りシュタイヤマルク特産のシルヒャーワインで知られるシルヒャー街道
- ④アイビスヴァルトからエーレンハウゼンへ、スロヴェニアとの国境沿いに走る本来の意味での南シュタイヤマルク・ワイン街道

オーストリア野外博物館

グラーツから北へ18キロのシュテュービングには、オーストリアで最も美しい野外博物館があり、広い敷地内に全国各地の伝統的農家、穀倉、水車小屋、山小屋などが見学できます。 www.freilichtmuseum.at

白馬の生まれ故郷ピーパー

ウィーン王宮内のスペイン式馬術学校で高等馬術の演技を見せる彼らをフォーマルなモーニング姿とすれば、母馬と子馬、若馬の群れからなるピーパーの養馬場では広々とした放牧地を駆けめぐる素顔のリピッターに会うことができます。

アクセス：グラーツから列車で約55分、車で45分。 www.piber.com

ベルンバッハの聖バルバラ教会

グラーツから西へ車で約40分、緑溢れるベルンバッハ村にウィーンの画家フンデルトヴァッサーが建てたカラフルな聖バルバラ教会があります。



ムーアタール鉄道

鉄道ファン、SLファンの人気を呼んでいるムーアタールバーン。団体用プラン一例：グラーツからバスで西方ウンツマルクトへ。高速道路と一般道路で約110km。ウンツマルクトから狭軌の単線ムーアタールバーンに乗り、タムスヴェークまで約70キロ、約1時間半。風光明媚なアルプスの山と谷を走ります。ピュッフェとフォルクスミュージックの生演奏つきのサロンカーのアレンジも可能です。そこからザルツブルクに抜けることができます。6月末から9月初めまでの毎火曜と水曜にSL (Dampfzuege) が走ります。詳しくは www.stlb.at